

坂口製作所

CMT溶接機2機を導入

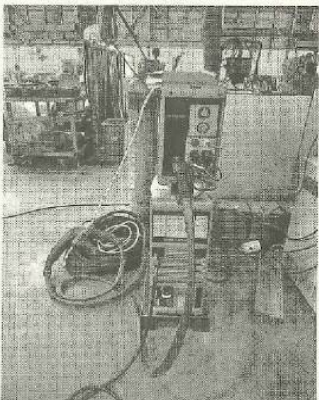
アルミ薄板溶接が可能に

同機では、アルミ板厚 0・3mmの溶接、アルミとステンレスの突合せ溶接などが行える。坂口製作所は1951年の創業、86年の設立。従業員数は87人。和歌山工場はアルミ溶

接で「軽金属溶接構造物製造工場M級」（軽金属溶接協会）に認定されている。新幹線の部品、空港化学消防車用水槽、実験動物飼育ラック、食品・製薬工業用トレイ、信号器具箱、車椅子、選挙の投票箱などを生産。ここ数年は難燃性マグネシウム合金の溶接にも取り組んでいる。

アルミ・ステンレスに特化した板金・溶接・組立加工を手掛ける坂口製作所（本社・大阪市西成区、社長・坂口清信氏）はこのほど、和歌山工場（和歌山県有田郡有田川町）にオーストリア・フロニアス社製CMT（Cold Metal Transfer）溶接機2機を導入した。品質および生産性向上が狙い。投資額は約1千万円。2015年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金制度を活用した。

フロニアス社製CMT溶接機は、従来のアーク溶接機（MIG溶接機）に比べ入熱量はほぼ半減、溶融プールを強制的に溶接スピードが約2倍、スパッタも極限まで低減できる。導入に際しては、溶融速度および溶接品質の向上が図れる。「CMT溶接」



オーストリア・フロニアス社製CMT溶接機

鉄鋼新聞 2017年3月30日付